円空大賞の概要

１　開催趣旨

「円空」は、江戸時代（１６３２～１６９５年）に美濃国（岐阜県）に生まれ、全国を行脚しながら、生涯に１２万体の神仏像を彫ったと言われる修行僧。円空は人々の心を癒し続け、その作品の単純稚拙の美や、そこから感じられる人間らしさ、慈愛の精神は、今も私たちに深い感動とやすらぎを与えている。

岐阜県では、この類のない「円空仏の独創性」や「円空の慈愛の精神」を、改めて注目すべき本県の個性と捉え、平成１１年度に円空大賞を制定。本事業では、「円空」を連想させる顕著な業績をおさめている現代作家を選考し顕彰するとともに、県内の円空仏と併せて作品を展示する「円空大賞展」を開催する。

これにより、県民に優れた芸術文化にふれる機会を提供するとともに、円空のよさを広く発信することによって、郷土への誇りや愛着を醸成する。

２　賞

円空大賞１名（賞金３００万円、トロフィー）円空賞４名（賞金１００万円、トロフィー）

３　選考の視点

「円空」を連想させる顕著な業績をおさめている現代作家（立体造形・絵画・映像等）を対象に下記の視点を考慮して選考。

（１）風土性と国際性（世界各地域の風土や土着性に根ざし、国際的にアピールできるもの）
（２）自然とのかかわり（自然との交流を創作の契機としたもの）
（３）伝統性と現代性（伝統文化や芸能性、現代性を兼ね備えたもの）
（４）在野性と民衆性（地域の民衆と交流し、慰めを与えるヒューマンな性格）
（５）身体性（知的、頭脳的であるよりむしろ身体性に根ざした素朴で率直な表現）
（６）素材や伝達媒体（木や金属などの素材、映像など多様なメディアを生かした造型表現）
（７）上記（１）～（６）のような視点を持つ研究、評論

なお、受賞者の選考にあたっては、隠れた芸術家を積極的に取りあげることとする。

４　第 8 回円空大賞選考委員

（敬称略　五十音順　役職は平成 26 年度当時）

・委員長　梅原　猛（国際日本文化研究センター顧問）
・副委員長　辻　惟雄（東京大学名誉教授、多摩美術大学名誉教授、MIHO MUSEUM 館長）
・委　員　榎本　徹（岐阜県現代陶芸美術館長）
木幡和枝（アートプロデューサー、東京藝術大学美術学部先端芸術学科教授）
今野由梨（円空研究家、ダイヤルサービス社社長）
新宮　晋（造形作家）
長谷川公茂（円空学会顧問）
パトリシア・フィスター（国際日本文化研究センター教授）
日比野克彦（アーティスト、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授）
山本容子（銅版画家）
ヤン・ファン・アルフェン（ニューヨーク　ルービン美術館　ディレクター）

計１１名